

## 7. 村橋久成年譜

作家・田中和夫氏の手による  
村橋久成 53 年の軌跡。

### 天保 13 年(1842)

10・中 薩摩藩加治木島津家一門村橋久柄の嫡子として出生。昇介と命名(のち直衛、久成と改名)

### 嘉永元年(1848)

3.28 琉球着任を命じられた父、久柄をのせた船が破船、遭難。行方不明となる。わずか 6 歳にして家督を相続することになる

### 元治元年(1864)

11・中 薩摩藩庁において英国留学生派遣を決定

### 慶応元年(1865)

1.19 英国留学への藩命下る

1.20 鹿児島城下を出発。翌 21 日、串木野郷羽島浦に到着。密出国のため変名(橋直輔)を使用

3.22 村橋ら留学生一行、グラバー商会のオースタライエン号に乗船し、羽島浦を発つ

3.26 香港到着

4.12 シンガポール到着

5.15 スエズ到着

5.28 英国サザンプトン港到着。同日夜ロンドン到着

6.7 専攻科目を海軍学術から陸軍学術に変更

8・中 ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジの法文学部に入学

### 慶応2年(1866)

3.28 松木弘安とともに帰国の途につく

5.24 鹿児島に到着

### 慶応3年(1867)

10.13~14 薩長両藩に討幕の密勅下る。徳川慶喜、大政奉還

### 慶応4年(1868)

5.5 弟宗之丞、薩摩藩小銃十番隊小頭見習として長岡戦に出軍

6.14 弟宗之丞、長岡にて戦死

7.16 加治木大砲隊監軍として鹿児島出発

8.24 越後松ヶ崎に上陸

9.9 松ヶ崎出発、新発田、米沢、上ノ山を経て山形に向かう

10・中 越後村上に滞陣

12.6 新発田、会津を経て東京へ入る

### 明治2年(1869)

3.8 箱館出兵のため品川から軍艦春日にて青森へ向かう

3.25 宮古港にて旧幕府軍艦回天と海戦

3.27 青森到着。旧幕軍征討青森口鎮撫総督府軍監となる

4.16 江差上陸。二股口の官軍の指揮をとる

5.11 箱館市街を制圧

5.12 箱館病院に会津藩遊撃隊長・諏訪常吉を見舞い、病院長高松凌雲を通じて榎本武揚に恭順を勧告

5.16 千代ヶ岳陣屋を攻撃

5.18 五稜郭落ち、旧幕府軍降伏。榎本らの恭順に立ち合う

5.21 蝦夷地平定。軍監を免ぜられる

6.1 東京帰着

7.4 嫡子亀千代、死亡(2歳)

7.14 鹿児島帰着

9.14 賊軍追討の戦功により金400両の賞典を下賜される

### 明治3年(1870)

5.9 黒田清隆、樺太専任の開拓次官となる

10.10 開拓使東京出張所を芝増上寺に置く

### 明治4年(1871)

11.28 開拓使採用。十等出仕、東京出張所在勤

### 明治5年(1872)

6.3 九等出仕に昇格

8.25 開拓権大主典となる。東京三官園担当となる

### 明治6年(1873)

5.25 開拓大主典となる。農業課担当。宿所は東京第二大区小六区芝栄町一番地

12.22 農業課七重村官園(旧七重開墾場、のち七重(現、七飯)勸業試験場と改称)在勤

### 明治7年(1874)

1.9 札幌殖民地(屯田兵村地)取調べを命ぜられる

3・中 七重村官園300万坪の全地測量と畑地の区画を終了

3.27 札幌殖民地取調べのため函館(七重村)出発

4.5 札幌到着

4・中 屯田兵の入殖地を琴似村に決定し、200戸の兵屋建築のため同地域の伐木と測量、地区割り作業を実施

4.23 石狩川上流の石炭山調査のため札幌を出発

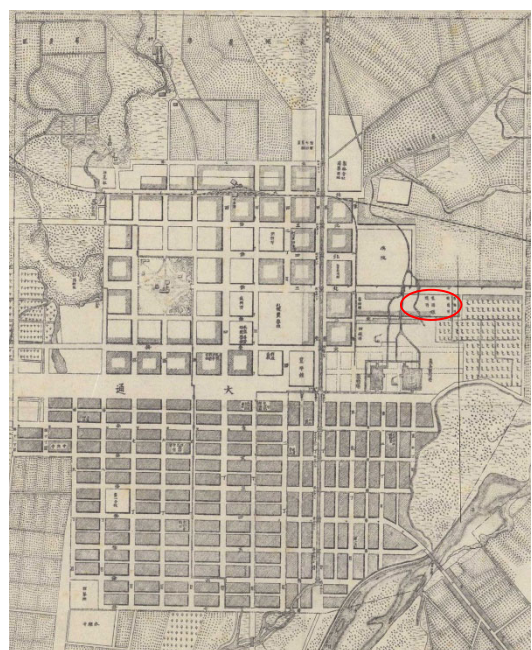
- 4.30 札幌帰着
- 5.4 札幌殖民地取調べを終えて、札幌を出発
- 5.5～10 室蘭到着。室蘭殖民地(屯田兵村地)取調べ
- 5.11 函館帰着
- 5.17 屯田兵村着手報告のため函館出発
- 5.20 東京到着
- 6・中 屯田兵事務を担当
- 7.18 函館七重村帰任のため東京出発
- 7.8～8.5 屯田兵村授産用桑の苗木購入のため栃木県、置賜県(山形県)に立ち寄り、七重村に帰着
- 11.28 琴似兵村に 208 戸の兵屋落成

### 明治8年(1875)

- 2.4 東京出張所農業課在勤となる
- 4.20 開拓使七等出仕(奏任官)となる
- 6.10 勸農本局を本庁に設けるなど勸農機構の改正を求める「勸農着手順序ノ義」の稟議書を上司に提出
- 8.14 北海道物産縦覧所(のち、仮博物場と改称)事務管理を命ぜられる
- 8.30 ドイツ帰りの麦酒醸造人・中川清兵衛を雇用し、雇用期間中は辞職は相ならぬという内容の誓約書を提出させる。麦酒醸造所建設見積書、麦酒製造入用品見積書を上司に提出
- 11.11 次男、圭二誕生
- 12.25 麦酒醸造所、北海道建設の稟議書を上司に提出
- 12.28 麦酒醸造入用品、横浜到着

### 明治9年(1876)

- 2.25 麦酒醸造所北海道建設を促す稟議書を再提出。  
北海道実地建設までの仮払い稟議書を提出
- 2.28 麦酒醸造所北海道建設稟議、裁可
- 2.29 麦酒・葡萄酒醸造所、札幌製糸所建設の指令下  
る
- 4.7 三所建設のため、札幌在勤となる
- 5.27 牧畜技師エドウィン・ダン、招募清国人、工部省赤  
羽製作所職工ら 30 名を同行し、東京出発
- 6.1 札幌到着
- 6.27 麦酒醸造所建築着手
- 8.2 鹿児島島の祖母、死去
- 8.6 本庁物産局製煉課在勤となる
- 8.13 札幌製糸場建物落成



札幌市街之図(明治 22 年)(一部) 赤丸が麦酒醸造所

- 8.17 麦酒・葡萄酒醸造所建物落成
- 8.30 札幌葡萄酒醸造所竣工
- 9.8 札幌麦酒醸造所竣工
- 9.8 麦酒醸造に着手
- 9.23 麦酒醸造所、葡萄酒醸造所、製糸所開業式
- 10.8 麦酒製造見習い人選抜のため有珠郡紋別村へ出張
- 10.30 東京出張所在勤を命ぜられる
- 11.15 札幌出発
- 11.19 東京到着

### 明治 10 年(1877)

- 1.23 職官改正によって開拓権少書記官となる。宿所、東京芝山内三島谷 19 番地
- 1.25 麦酒製造雇、中川清兵衛の 24 ヶ月雇継ぎの稟議書を上局に提出
- 2.7 札幌から輸送の麦酒貯蔵のため、氷販売業中川嘉兵衛の氷室借用の稟議書を上局に提出。箱崎官用地に北海道物産売捌所建築を稟議
- 4.18 正七位に叙せられる
- 6.23 札幌産の麦酒と葡萄酒、箱崎官用地船着場に荷揚げされ、中川の氷室へ搬入。皇太后、その他大官諸侯公に献上
- 9.11 読売新聞に札幌製麦酒の広告を掲載
- 11.26 札幌在勤を命ぜられる
- 12.24 東京・箱崎官用地内に北海道物産売捌所ならびに麦酒蔵建築を再稟談。裁可される

### 明治 11 年(1878)

- 6.7 幌本庁民事局副長に任ぜられる
- 10.6 札幌農学校演武場(のちの時計台)新築なり、生徒分列式を観閲
- 11.24 綿羊飼育調査のためエドウィン・ダンを伴って七重勸業試験場へ出張
- 12.2 調所民事局長、黒田長官随行員としてコルサコフ出張のため、民事局長代行

### 明治 12 年(1879)

- 1.17 病気療養のため 1 ヶ月間の予定で熱海温泉へ出発
- 2.15 熱海療養を終え着京。そのまま東京滞在
- 4.8 東京出張所在勤となり、勸業課長に任ぜられる
- 4.12 丘珠村入地の招募清国人、許士泰、范永吉を帰化させ、開拓使平民に入籍させる

### 明治 13 年(1880)

- 5.13 進退伺を黒田長官に提出。品川・高崎間の鉄道線路測量のため、工部省官員による二号試験場内の無断伐木によって平常の監督不行届を自省。却下
- 6.9 東京出張所勸業試験場長に任ぜられる
- 6.18 五代友厚大阪商法会議所会頭からの書簡を受領(勸業課取調の物産商業上に関する報告書類

は細大洩らさずに差回されたし、との要請書)

- 11.5 工場払い下げ概則によって、一号、二号の勸業試験場を、一般入札法による払い下げ処分を公示

#### **明治 14 年(1881)**

- 5.4 開拓使を辞職  
5.11 「奉職中職務格別勲励」につき慰労金 200 円下賜  
6・中 東京出張所廃止。事務を札幌本庁に移す  
7.27 黒田長官、北海道開拓使官有物払い下げを申請。一大政治スキャンダル巻き起こる  
10.12 官有物払い下げ中止。国会開設の勅諭(明治 14 年の政変)

#### **明治 15 年(1882)**

- 2.8 開拓使廃止に伴い、慰労金 350 円下賜

#### **明治 18 年(1885)**

- 10.26 母、須賀死去

#### **明治 25 年(1892)**

- 9.25 神戸市葺合村において行路病人として救護を受ける  
9.28 死亡。仮埋葬。享年 53 歳  
10.10 「神戸又新日報」に行旅死亡の広告掲載  
10.18 新聞「日本」の雑誌欄に「英士の末路」掲載  
10.20 新聞「日本」の投稿欄に旧友から寄せられた弔文掲載。旧友の連名で葬儀開催の呼びかけ文各地に発信される  
10.23 青山墓地にて黒田清隆ら参列のもと、葬儀とりおこなわれる

(田中和夫編)